

ID <sup>注1)</sup>	031123	公開レベル <sup>注1)</sup>	C	保管形式 <sup>注1)</sup>	紙	保管場所 <sup>注1)</sup>		前回ID	
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	---	---------------------	--	------	--

報告書名称 /調査名称	白神山地世界遺産地域の森林生態系保全のためのモニタリング手法の確立と外縁部の森林利用との調和を図るための森林管理に関する研究報告書（平成10～14年度）／白神山地調査地域のエダヒゲムシ類調査	発行年月/報告年月	
		2004年	2月
		資料形式 <sup>注2)</sup>	報告書

調査機関	環境省自然環境局 東北地区自然保護事務所	委託機関	萩野康則(千葉県立中央博物館)
------	----------------------	------	-----------------

調査開始年	1999年	10月	調査期間	1999年	10月	～	1999年	10月
-------	-------	-----	------	-------	-----	---	-------	-----

調査頻度 <sup>注2)</sup>	—	調査時期 <sup>注2)</sup>	秋
---------------------	---	---------------------	---

モニタリング計画	2012年3月 策定	区分 <sup>注2)</sup>	ⅡB	大区分 <sup>注2)</sup>	2	小区分 <sup>注2)</sup>	(1)
----------	------------	-------------------	----	--------------------	---	--------------------	-----

調査箇所・範囲 <sup>注3)</sup>	目的・調査手法
------------------------	---------

核心地域     緩衝地域     周辺地域

GPS等の位置データあり

※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

①一般土壌動物定性調査用試料  
 1999年10月2日、楡石山南斜面モニタリングサイト(標高520m)大雨、気温13.0℃、地温13.4℃。  
 コドラートE2、E6およびE10の枠内から約15リットルの土壌試料(林床落枝・落葉を含め5cmの深さまで)を2袋ずつ、およびコドラート外から同量の土壌試料を1袋、合計7袋の試料を採取した。  
 10月3日、楡石山尾根部モニタリングサイト(標高620m)、大雨、気温9.8℃、地温13.4℃。コドラートE2、E6、そしてE10の枠内から約15リットルの土壌試料を2袋ずつ、およびコドラート外から同量の試料を1袋、合計7袋の試料を採取した。  
 これらの試料を採取日のうちに宅配便で獨協医科大学、昭和大学、千葉県立中央博物館に送り、定性調査用大型ツルグレン装置で土壌動物を抽出した。

結果概要 (スペースに収まるように入力してください)

1999年10月2日と10月3日に8調査地点から採集されたエダヒゲムシ類386個体をプレパラート標本にして検鏡・同定したところ、1科4属18種が確認された(種名未確定種10種を含む)。  
 検鏡・同定した386個体エダヒゲムシ類について8調査地点を一括して5個対以上確認された種の種名、個体数、総個体数に占める比率(%、および比率の積算(Σ%))は以下の通りである。

種名	個体数	%	Σ%
クシドンゼロエダヒゲムシ	99	25.65	25.65
ミソエナガエダヒゲムシ	80	20.73	46.37
イバラキホンエダヒゲムシ	66	17.10	63.47
エナガエダヒゲムシ(b型)	62	16.06	79.53
エナガエダヒゲムシ属ドンゼロエダヒゲムシ亜属の一種	17	4.40	83.94
エナガエダヒゲムシ属エナガニ〔ダヒゲムシ亜属の一種	13	3.37	87.31
ナミエダヒゲムシ属ホンエダヒゲムシ亜属の一種	11	2.85	90.16
ケナガドンゼロエダヒゲムシ	7	1.81	91.97

出現個体数上位7位までで総個体数の90%を超えている。とりわけ、上位4種の出現頻度が高く、この4種で総個体数のほぼ80%を占めているのが特徴的である。各調査地点を個別に見てもこの傾向は認められ、いずれの調査地点も、出現頻度上位4種にこれらの種が2種から4種が出現している。  
 これら4種は全国各地に普通に見られる種ばかりであり、国内のいくつかの地点のエダヒゲムシ相を見ても、しばしば最上位を占めている(萩野,2002)。従って、これら4種が優占することが良く保存されたブナ林に特徴的なこととは言えないが、これらの種だけで個体数の80%をも占め、他種が種数個体数とも少なく、一見単調な動物相に見えることは、遷移が進み安定した環境においては他種が消失し、これら4種が優占するようになったことを示唆していると思われる。

問い合わせ	環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635 ※「原本(データ)の帰属について」
-------	--

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。  
 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。  
 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考